

S I N R O DAYORI

# 進路だより



いわき光洋高等学校  
進路指導部  
令和3年6月3日(木)  
第2号発行

## 入試のしくみを知ろう！～学校推薦型選抜と総合型選抜～



今回は、一般選抜に先駆けてスタートする学校推薦型選抜、総合型選抜についての基礎知識を紹介します。ただし、高校入試とは異なり大学入試は、大学・学部、入試方式により出願条件も選考方法も大きく変わってきます。これを読んだら必ず自分の志望する大学の情報をチェックし、対策に役立ててください。

### ●学校推薦型選抜（旧推薦入試 公募制&指定校制）



ポイント1 学業成績や部活、ボランティアなどの実績でチャレンジ

ポイント2 小論文・面接の攻略がカギ！方式により共通テスト対策も

入試の多様化が進む中、学校推薦型選抜の入学者の割合は増加傾向にあり、一般選抜に次ぐもう一つの受験ルートとして存在意義を増しています。学校推薦型選抜の基本的なしくみについて紹介します。

#### ①学校選抜型選抜は公募制と指定校制がある

	公募制	指定校制
公募制と指定校制の違いとは？	大学の出願条件を満たし、学校長の推薦が得られれば、全国どこの高校からでも出願できる。 ※学校長の推薦は、校内推薦会議にはかり選考する	大学が指定した高校から指定人数だけ出願できる。 (大学は過去の入学者数や、入学後の成績などを見て高校を指定する) ※光洋高校を指定校とする大学の公示は、2学期始業日(進路指導室内) ※校内推薦会議にて校内選考がある
国公立大学	国公立大は原則公募推薦 ※公立大の一部で「県内・市内の高校に限る」という出身地指定もある。 ※1人1大学しか応募できない	指定校制を実施する国公立大はほぼない。
私立大学	大学によって異なるが、首都圏の大学などは1人1大学しか応募できない(専願)が多い併願が可能な大学もある。	指定校制は原則として1人1大学の専願であり、合格すると入学辞退が認められない。

出願条件

①学業成績  
「調査書」の「全体の学習成績の状況」・「学習成績概評」。国公立大は全体的に高く、私立大は大学や学部により条件が大きく異なる。  
②現浪 ③併願の可否  
※国公立大では、共通テストを課す大学もあり、共通テスト成績請求票の添付が必要  
※英語の外部検定(英検、TEAPなど)の成績を出願資格とする大学が増えている

※試験日程は殆どの大学で、公募制推薦も指定校制推薦も同日程で実施するところが多いようです。

## ②最重要出願条件は「全体の学習成績の状況」

調査書の「全体の学習成績の状況」「学習成績概評」に記載される学業成績が出願の最重要条件です。

### ◇全体の学習成績の状況とは？

調査書に記載された全教科・科目の成績（評定）を足して、その合計を全教科数で割ったもの

※1年～3年の1学期までの成績で算出する。

### ◇学習成績概評とは？

全体の学習成績の状況に応じて区分される、A～Eの評価

**A (5.0～4.3) , B (4.2～3.5) , C (3.4～2.7) , D (2.6～1.9) , E (1.8以下)**



### ◇国公立大

「全体の学習成績の状況」が4.0以上または「学習成績概評」がA段階以上の大学が目立ちます。

### ◇私立大

「全体の学習成績の状況」が3.2以上または「学習成績概評」がC段階以上の大学が多いですが、大学・学部により高い大学も低い大学もあります。

## ③3年1学期の中間・期末テストが勝負

3年の1学期の期末テストは「学習成績の状況」の**数値アップの最後のチャンス**です。1点でも高い得点がとれるように全力を尽くしましょう。

## ④気をつけたい「併願の可否」－「専願」に注意！

学校推薦型選抜では他大学との併願が不可で、1人1大学しか出願できない「**専願**」という条件があります。国公立大はほとんどが「**専願**」です。私立大も指定校制は原則「**専願**」です。私立大の公募制は大学によって異なりますが、全国的に見ると、首都圏の大学は「**専願**」が多く、関西地区は「併願可」とする大学が多い傾向があります。「**専願**」の場合、合格すると入学辞退が認められないので要注意です。

## ⑤選考は「書類審査＋小論文＋面接」が主流

学校推薦型選抜の選考方法は、およそ下の6つのパターンです。最も典型的な選考方法は、③の「**書類審査＋小論文＋面接**」になります。小論文は、**基礎的な学力の定着度や入学後の適性**などをみるための試験であり、学校推薦型選抜試験における配点も高いです。小論文の出題形式は大きく4タイプに分類されます。

選考方法
①書類審査（調査書、推薦書、志望理由書など）
②書類審査＋面接
③書類審査＋小論文＋面接
④書類審査＋学力試験＋小論文＋面接
⑤書類審査＋学力試験＋面接
⑥書類審査＋実技試験＋面接

小論文の出題形式	
課題論述型	与えられたテーマについて自分の意見を書く
文章読解型	課題文が提示され、それを読み解き文章を要約したり関連テーマについて論述する
資料分析型	グラフや表などが提示され、それについての分析・意見を書く。
教科密着型	特定教科の学力試験的問題

※調査書の「**指導上参考となる諸事項**」「**備考**」欄が**2021年度入試から拡充**され、高校での学習における特徴、課外活動、取得資格・検定・表彰・顕彰等の記録などを詳細に記入して自己アピールができるようになりました。



※校内推薦会議で出願が認められた生徒は原則として、小論文指導、面接指導を受けなければなりません。これらの指導の状況によっては、校内選考の決定が取り消しになる場合もあります。

## ●総合型選抜（旧AO入試）

始まった頃は学力はあまり問われませんでしたが、今では学力を問う試験や多くの課題を課す学校が増えていきます！

**ポイント1 アドミッション・ポリシーを確認し、「意欲」「可能性」をアピール！**

**ポイント2 面接重視だが、学業成績基準や英語資格の重要度も高まる**

総合型選抜の入学人数も年々増加傾向にあり、国公立大学では2021年度総合型選抜の募集人員が、7,157人と前年より1,598人も増加しました。今後も、難関大学への早期合格のチャンスとして注目です！

### ①総合型は総合的な人物評価入試

◇学力試験だけでなく、面接・小論文や書類審査、自己PRなどで受験生の個性や適性、意欲など総合的な人物評価を行う選抜方法です。

◇学校長の推薦を必要としない場合が多いです。

◇専願の大学が大半です。

◇スケジュールは大学によって大きく異なります。（原則9月1日以降に出願受付）中には選抜が長期間にわたる大学もあるため、最終的に不合格になったときのリスクが大きく、他の選抜の準備もしておいた方がよいでしょう。



### ②学業成績重視と英語の外部検定利用が増加

◇総合型選抜の出願条件は学校推薦型選抜と同様、学業成績、現浪、併願の可否などです。

◇学業成績の基準の上昇

難関大を除き全般に緩やかでしたが、近年新たに基準を設けたり、基準を高くする大学が増えました。

◇英語の外部検定（英検、TEAPなど）の成績を利用する大学の増加

2021年度に英語の外部検定を利用した大学の45.4%が「出願資格」として利用しています。

（次いで「加点」「判定優遇・合否参考」「得点換算」としての利用など）



### ③選考は「書類審査+面接」が中心

昨年度より学力を問う内容が必ず問われることになっています。総合型選抜の選考方法は、大きく次の5つのパターンに分類されます。

①書類審査（調査書、推薦書、志望理由書など）+面接	中堅以下の大学に多い
②書類審査+小論文+面接	公募制推薦と同様の形式
③書類審査+学力試験+面接	国公立大で多い。
④体験授業（セミナー）+書類審査+面接	事前にセミナーを受けることが条件
⑤エントリーシート+面談+書類審査+面接	専修学校に多い形式。大学では少ない。

### ④小論文は志望分野の特性も押さえる

総合型選抜では、課題論述型の小論文では「～についてあなたの意見を述べよ」などといった設問になっています。志望学部・学科関連のテーマについて、自分の考えや意見を明確に書けるように日頃から練習を積んでおく必要があります。

### ⑤面接/面談

面談：大学の面接官と受験生が互いに質問し合い、理解を深めていくもの

面接：提出書類に基づき、大学の面接官が一方向的に質問し、選考するための試験

いずれも、入学への意欲や目的、自分の将来性や可能性を十分にアピールしましょう。

	受験者	面接官
個人面接	1名	1名 2～3名
グループ 面接	2～3名	1～2名 3～4名



### ⑥面接は「個人」と「グループ」形式

◇通常、事前に行った「面接カード」や出願時に提出した調査書・志望理由書に基づいて質問されます。

◇大学のアドミッション・ポリシーによる「期待する学生像」の視点を重視して審査されます。

◇口頭試問の場合は、学科・専攻関連の基礎的知識や常識、実施した小論文や学力試験について質問されます。理系の大学・学部で実施されることが多く、簡単な計算や実験、ホワイトボードを使って答えるようなものもあります。面接官は受験生の答えや作業、態度などから素質や適正、意欲を審査し、解答に至るまでのプロセスを重視します。



## ●コロナ禍で広がるオンライン入試に備えよう！



新型コロナウイルス感染症防止対策として、自宅などからパソコンやスマートフォンなどの通信機器を用い、インターネット回線を使ってオンラインで面接試験、筆記試験を受ける入試形式、『オンライン入試』を導入する大学が増えています。試験会場への移動の負担がなくなる一方、通信環境を受験生側で整える必要があります。オンライン面接では、Zoomなどのオンライン会議ツールを使って、試験官と面接したり、グループディスカッションなどを行います。また筆記試験の代わりに、パソコン上で問題文を読み、選択肢を選んで解答したり、記述式の場合は文字を入力して解答することもあります。2022年度入試も、コロナの流行状況によっては志望校がオンライン入試になることも考えられるでしょう。志望校の情報を注視し、オンライン入試になった場合も慌てることのないよう必要な機器や環境について知り、心構えをしておきましょう。

### ①オンライン受験に必要な機器や環境

- ①カメラ付きパソコンまたはスマートフォン・タブレット
- ②イヤホンやマイク、ヘッドセット
- ③インターネット回線
- ④受験に必要な環境が整った静かな場所



### ②カメラ付きパソコンまたはスマートフォン・タブレット

スマートフォンやタブレットより通信の安定性が高いパソコンが推奨されます。（スマートフォンやタブレットによる受験を認めていない大学もあります）カメラの付いていないパソコンの場合は、別売のWebカメラが必要です。

OS（Windows 10やmacOSなど）やWebブラウザ、ZoomやTeamsといったオンライン会議ツールが指定される場合があるので、大学の指示に従ってください。

古いパソコンの場合、ツール等の動作に必要な性能を満たしていない場合があります。大学の指示する「推奨環境」をよく確認し、適切な機器を準備しましょう。

### ③イヤホンやマイク、ヘッドセット

オンラインで会話するために、マイクやイヤホン（ヘッドホン）、それが一体化したヘッドセットが必要となります。安定して通信ができるよう、ワイヤレスの製品より有線の製品が推奨されます。

### ④インターネット回線

オンラインでの試験や面接に必要なインターネットの通信速度を確保する必要があります。試験を受けている間は、周囲の人にできる限り同じ回線の利用を控えてもらい、速度が維持できるようにします。具体的には、試験中は同居する家族がオンライン動画などを視聴しないように協力してもらいましょう。

### ⑤受験に必要な環境が整った場所

試験を受けている間は、同室に受験生本人以外がいない、静かな環境を準備する必要があります。

### ⑥試験当日のトラブルを避けるために

試験前日までに当日使用する機器を使って接続テストを行うと安心です。事前テストで接続がうまくいかなかった場合、大学によってはサポート窓口を設けているところもあるので、相談することもできます。また、普段使用していないパソコンは、OSやアプリケーションの自動更新等で思わぬ負荷がかかることがあります。パソコンはこまめに起動しておき、当日は自動更新を切っておくとよいでしょう。

**次回の予告：次回の第3号の発行は7月下旬です。夏季休業中に取り組みなければならないことを学年別にお知らせします。尚、今年度の学校見学会（オープンキャンパス）の多くがオンラインでの開催を並行しています。必ずしも訪問しなければならないということはありませんので、1・2年次生の場合はオンラインでの参加をお勧めします。**